

箴言22章13節 「怠惰の問題」

1A 主との関係の妨げ

1B 言い訳

2B 情熱的な愛

2A 報いの問題

1B 関わらない問題

2B 不信仰の問題

3B あきらめる問題

3A 怠惰への対処

1B 蟻にある知恵

2B 知識のない熱心

本文

箴言 22 章 13 節を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、前回 19 章まで来ました。本日は、午後礼拝で 20 章から 23 章までを読みたいと思います。今朝は、22 章 13 節に注目したいと思います。「なまけ者は言う。「獅子が外にいる。私はちまたで殺される。」と。」ソロモンはユーモアを込めて、怠けている者、怠惰な者の姿を描いています。外に出て体を動かす、働かなければいけないと言われているのに、ほとんど可能性の低い獅子、ライオンとの遭遇を挙げて、出ていかない言い訳をしています。当時、イスラエルの地には獅子はいましたが、遭遇するのは極めてまれです。そうしたことを取り上げて、自分がしなければいけないことを先送りしています。

1A 主との関係の妨げ

箴言には、いろいろな主題が繰り返して出てきますが、怠けること、怠惰の問題はその一つです。新改訳の聖書では、16 回も「なまけ者」という言葉が出てきます。

1B 言い訳

今、読んだ箇所から分かることは、怠けている人は「関わらない」ということが特徴です。主を信じている者であれば、主から与えられているいろいろな事があります。それは足を動かし、手を動かさなければいけないものです。ところが、そうしたことに関わらないでいるのに、口だけは動いています。他の人たちが道ばたを歩いていて、「おい、出て来いよ。」と言っても、「獅子がいることを知らないのか。」と言って、論評するだけはします。「26:16 なまけ者は、分別のある答えをする七人の者よりも、自分を知恵のある者と思う。」他の人たちが動いているのに、自分だけは第三者としてこの状況を知っていると思っているのです。

そして、獅子がいるということも、可能性はゼロではないでしょう。熱心に動いている人は、その

人のために獅子が来ないようにするとか、あるいは獅子がいないことを確認するとか、彼が家から出てくるように最善のことをしてあげるとします。けれども、感謝することもせず、出てきません。「19:24 なまけ者は手を皿に差し入れても、それを口に持っていこうとしない。」主が与えてくださった開かれた道に感謝するというのは、皿を手に差し入れたら、口に持ってくるような、ごく基本的な作業です。それをしない。感謝することすら億劫になっている姿です。

怠惰というのは、そもそもどこから出てくるのでしょうか？ 箴言の中でなまけ者が出てくる最初の箇所は 6 章 6 節ですが、9-10 節を読みたいと思います。「なまけ者よ。いつまで寝ているのか。いつ目をさまして起きるのか。しばらく眠り、しばらくまどろみ、しばらく手をこまねいて、また休む。」主によって目を覚まし、主から命じられていることについて、「いや、まだだ」として床から出てこない姿であります。主から、これこれをしなさいと言われていたのに、それを無視して、関わらないようにしている姿であります。ここでは、「いいえ、私はそれを行ないません。」という明らかな拒否はしません。しますよ、という意志表示は一応出します。けれども、絶えず自分を明け渡すこと、主に自分をお任せしてその命令に従うことを拒んでいます。「しばらく」という言葉が繰り返されているところに、よく表れています。イエス様は、「マタイ 5:37 「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」とだけ言いなさい。」と言われたのに、「いいえ」とは言わず、けれども「はい」という言葉を、絶え間なく言わないでいる状態です。ですから、主に従っていない、頑なな心から怠惰は来ています。

2B 情熱的な愛

怠惰というのは、主との関係に関わることです。私たちがイエス様を信じていると言うのであれば、自分がこの方に従っていると言うのであれば、その心は持続的な情熱に支えられているはずであります。信仰を持っていても、それを完全燃焼するのはよそう、信仰生活を車に例えるなら、エコ走行をしようと考えています。自分の信仰を完全に働かせておくのはよしておこう、「救い」や「天国行き切符」だけは失わないようにしておけばよいだろう、と考えます。けれども、それはもしイエス様を自分の主として生きているなら、そのようにはすることは決してできません。

なぜなら、主はご自分の民を、情熱をもって愛しておられるからです。主なる神がキリストをこの世に遣わされる時、それは主の熱心によるものであることを、イザヤが預言しました。「9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」ご自分から離れ、それぞれが勝手な道を歩み、迷っている羊たちを捜すために、そこにある情熱、熱意は並々ならぬものがあります。イエス様は、このことを「地に火を投げ込む」という言葉で言い表しました。「ルカ 12:49 わたしが来たのは、地に火を投げ込むためです。だから、その火が燃えていたらと、どんなに願っていることでしょう。」神が、キリストによって示された愛の中に留まるのであれば、その愛は情熱的な愛ですから、心が燃えないということはありません。

神の下さった信仰の道は、戦いの道であります。「1テモテ 6:11-12 しかし、神の人よ。あなたは、

これらのことを避け、正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。」熱心に求めていく、勤勉に求めていく、ということが必要になります。なぜなら、私たちの内にあるキリストの愛を冷やしてしまう障害物が、信仰という道には数多くあるからです。

愛というのは、労苦が伴います。実に、イエス様は人間となられて、十字架に付けられるまでの労苦によって、私たちに神の愛を示してくださいました。パウロがローマにいる聖徒たちに挨拶している時に、「主にあつて非常に労苦した愛するペルシスによろしく。(ローマ 16:12)」と言いました。ここの「非常に労苦した」というのは、「へとへとになって倒れてしまうぐらい労苦した」という意味になります。愛は情熱的です。これは決して、見かけの情熱ではなく、静かに燃えるような、静かな人であっても持続的に持っている情熱です。パウロは、テモテに次のように勧めました。「2テモテ 1:6-7 私の按手をもってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。」慎みの中に、力と愛が流れていきます。そして勤勉に仕えます。「勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。(ローマ 12:11)」

愛することは、計算することはできません。時に無駄をすることです。愛は注ぎ出すものであり、結果が出ないことが多々あります。そして、面倒くさいことです。お母さんが学校に通う息子のために弁当を作るのと、「お金上げるから、自分で買って食べなさい。」というのでは全然違います。手間をかけたものには、愛情がこもっています。愛には、このような具体的な行ないが伴っています。私たちがまだ第三の宣教地に行く前に、日本で宣教の働きをしていて、本当に救われる人が起こされずに落胆していた時に、私の敬愛する聖書教師の人が次の御言葉をくれました。「ヘブル 6:10 神は正しい方であつて、あなたがたの行ないを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。」主は、愛の労苦を決して忘れることはありません。ご自身が十字架に至るまで労苦されたのですから。

ですから、私たちの信仰生活で、効率を考え始めたら、とても危険なところに入っています。なるべく便利で自分の生活の都合に合わせたものにしていこうと調節していくのであれば、そこにはキリストの愛はありません。もし、私たちのように神が考えているのであれば、キリストはこの汚い人間の世界の中に入ってこなかったことでしょう。ベツレヘムの家畜小屋というところから、主の人生は始まりました。ですから、信仰生活を自分でまとめあげようとししないでください。御霊は時に自分の行きたくないところに連れて行き、それでそこで御霊の力強い働きが起こるといふこともあるのです。

2A 報いの問題

1B 関わらない問題

怠惰というのは、主の与えておられる事柄に関わらないことであることを話しました。これは霊的

には深刻なことで、主からの報いを取り上げられる結果を生みます。タラントの警えがそれです。主人から僕たちが、それぞれ五タラント、二タラント、そして一タラント受け取りました。五タラントと二タラントの者は商売をして、儲けました。そして、「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。(マタイ 25:21)」と言いました。しかし、一タラント預かった者は、土の中に隠しておいたのです。簡単にいうと、自分の人生に与えられていた神に仕える機会に対して、「面倒くさい」として関わらなかったのです。主人は何と言いましたか？「悪いなまけ者のひもべだ。…だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。(26,28)」悪い、怠け者の僕と呼ばれています。そして彼は、「外の暗やみに追い出さなさい。そこで泣いて歯ざしりするのです。(30 節)」という仕打ち、すなわち地獄に投げ込まれています。神のことに関する事柄に関わることを一切拒否したら、その人は賜物として与えられていたその人生と能力を無駄に費やしたことになります、それで火と硫黄の池の中に投げ込まれるのです。

2B 不信仰の問題

もちろん、キリストを信じている人が地獄に行くことはありません。しかし、信仰生活の中で、勤勉に、熱心に主の語られていることを聞いて、それに従っていないと、いつの間にか心がかたくなっていきます。そして十分に、主の備えておられる恵みに預かることができなくなります。霊的に怠惰になると、不信仰の罪に陥る危険があります。

イスラエルの民の荒野の旅のことを思い出してください。シナイ山から離れて、約束の地に向かうために北上しました。カデシュ・バルネアに着きました。そこから十人の者が様子を調べに偵察しました。ヨシュアとカレブは、そこは乳と蜜の流れる地であると報告しましたが、他の十人がそこに住んでいる住民がとても強いことを話しました。しかしヨシュアとカレブは、主が共におられるのだから、彼らに打ち勝つことができると話しました。けれども十人はますます、その住民がいかに強く、巨大であるかを言いふらしました。それで、民がエジプトに帰ろうと言い出したのです。

彼らは単純に、「主が共におられる」という約束を、その状況に当てはめればよかっただけなのです。そして、約束のものを手に入れることができたのです。ところが、手を皿に入れても、それを口に持って行かないように、神の約束を自分の口の中、心の中に入れていないのです。そうすると、その怠惰な思いの中で言い訳のための妄想が広がります。獅子が通りにいる、という言い訳と同じように、巨人がいる、我々は食い尽くされると妄想を言い並べたのです(民数 13:32)。この出来事をヘブル書の著者は、こう述べました。「4:2 福音を説き聞かされていることは、私たちが彼らと同じなのです。ところが、その聞いたみことばも、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって、結びつけられなかったからです。」聞いているけれども、それを信仰によって結びつけるという作業をしなかったのです。これが不信仰であり、霊的怠慢です。

このことのため、イスラエルの民は荒野を四十年さまようことになりました。約束の地に入って安

息を得ることはありませんでした。けれども、勤勉な人、しっかりと神の約束を自分のものとしていく人には安息が約束されています。「4:3 信じた私たちは安息にはいるのです。「わたしは、怒りをもって誓ったように、決して彼らをわたしの安息にはいさせない。」と神が言われたとおりです。」しっかりと主の言われたことを行なっている人の魂は、安らぎがあります。体や気力も疲れるでしょう、しかし、主の御心を行なっているという魂は安らぎが与えられます。その反対は、怠惰な心です。こうしなければいけない、こうやりたいという思いがあっても、いつもできていないという焦燥感があります。「13:4 なまけ者の心は、願い求めても、何も得ない、しかし勤め働く者の心は豊かに満たされる。(口語訳)」

3B あきらめる問題

そして勤勉であるということは、あきらめないことです。先ほどのタラントの譬えで、主人がしもべに、「よくやった。良い忠実なしもべだ。」と言いました。忠実ということは、途中で放棄するのではなく、あきらめないで最後までやり通すことです。怠惰の特徴として、途中であきらめることがあります。「12:27 無精者は獲物を捕えない。しかし勤勉な人は多くの尊い人を捕える。」獲物を捕えようとしても、言い換えれば神の約束を手に入れようとしても、途中であきらめるので、いつまでもそこでの祝福を味わえません。個人の信仰生活の中で、また教会の生活の中で、主から与えられたものを忠実に行ない、その後にある約束を手に入れるという体験をぜひしてください。いろいろやってみるけれども、中途半端であるならば、どれも実を結ぶことはありません。「20:4 なまけ者は冬には耕さない。それゆえ、刈り入れ時に求めても、何もない。」冬に耕すからこそ、刈り入れ時に実を結ばせているのです。

3A 怠惰への対処

ですから怠惰には、「関与しない問題」「信じない問題」そして「あきらめる問題」があることが分かりました。では、怠惰に対抗する知恵は何かあるのでしょうか？箴言には、興味深い生き物が勤勉であることの知恵を持っていると紹介しています。

1B 蟻にある知恵

「6:6-8 なまけ者よ。蟻のところへ行き、そのやり方を見て、知恵を得よ。蟻には首領もつかさも支配者もないが、夏のうちに食物を確保し、刈り入れ時に食糧を集める。」蟻が知恵者であります。「えっ？こんな小さな、身近な昆虫が知恵のある者なの？」と思われるでしょう。その通りです。知恵を得るには、まずへりくだりが必要です。蟻が物を運んでいる時に、その道を塞いでみましょう。彼らは、それでもそこを乗り越えて物を運ぶのをやめたりしません。勤勉です、これまで見たなまけ者とは正反対です。

蟻の特徴は、ここにあるように「首領がいない」ということです。ここで分かることは、「強いられる前に自ら動いている。」という原則です。自分が自由な人として生きるためには、自由な意志で神に命じられたことを行ないます。怠惰であればあるほど、誰からか強いられることになります。そ

うすれば、その人の僕になってしまいます。しかし、蟻と同じように自ら主から命じられたことを行ない始めるのです。

そして、「夏のうちに食糧を確保」していることです。次の刈り入れ時には食糧を手に入れることはできますが、それまでの間の食糧も必要です。つまり、いつどんな時でも働いているということが必要です。「2テモテ 4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」時が良くても悪くても行ないます。エペソ書でも、パウロはこう言いました。「エペソ 5:15-16 そういうわけですから、賢くない人のようにはではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。」機会を十分に用います。適当にエコ運転でやっていこう、ではないのです！いつもフル回転であるからこそ、主が与えられる機会というものがあります。

2B 知識のない熱心

そして、ここで気をつけていただきたいのは、であればただ一生懸命であればよい、熱心であればよいということではありません。私たちは前回、「19:2 熱心だけで知識のないのはよくない。急ぎ足の者はつまずく。」と学びました。私たちが知識を持たず熱心になっていると、そこには命の泉、神からの命がないので燃え尽きてしまいます。

箴言 20 章 9 節に、「だれが、「私は自分の心をきよめた。私は罪からきよめられた。」と行うことができよう。」とあります。私たちの心に、どこかで自分の咎があるという罪責感があると、その罪責感が熱心な行ないへと駆り立てることがあります。何か悪いことをすると、その人を宥める、あるいは受け入れてもらおうと動き始めます。妻に悪いことを言ったら、夫が花束をもって家に帰ってくるとか。自分の心を清めようとしてしまいます。そして、教会活動で熱心である中で、人々に受け入れてもらう、教会の中心部分に入れば私は満たされる、とか、その深い部分では、自分の負い目を償おうと思って駆り立てられていることが多いです。これらはすべて、行ないによる義認です。神の前では、認められません。どんなことをしても、罪から清められることはないからです。

けれども、キリストの流された血が私を清めました。十字架の上で、私の罪のため、この負い目のためにすべてのために血を流してくださいました。それが、私の罪を洗い清めます。これを知っていれば、自ずと心からの奉仕を神に行なうことができます。覚えていますか、不道德の女はパリサイ派シモン家で食事を取っているイエスのところに来て、涙を流し、それがイエス様の足に落ち、それを自分の髪で拭って、さらに香油を塗りました。これは当時、相手に対する最高の敬意であり、礼儀でありました。それを、自分は不道德な女であると見られていることを知りながら、なおのこと行なったのです。どうしてか？愛していたからです。自分の罪が多く赦されていたからです。私たちの熱心さは、このキリストの愛に基づいています。

どうか熱心になってください。霊的に勤勉になってください。最後に、ペテロが霊的に勤勉になる

ように強く勧めている箇所があります。「2ペテロ 1:5-11 こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。これらを備えていない者は、近視眼であり、盲目であって、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。このようにあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国にはいる恵みを豊かに加えられるのです。」

【参考コラム】

育てよう健全信徒(27)エネチャージ搭載・低燃費走行クリスチャン

<http://blog.kiyoshimizutani.com/?eid=3578>